



JA あいち三河 × SDGs

～ミライについて少し考えてみませんか～

地球上の“だれひとり取り残さない”——。

2015年に国際連合に加盟する193の国が1つの文章を採択しました。

それが「持続可能な開発のための2030アジェンダ」。

“だれひとり取り残さない”をキーワードに、あらゆる国が参加し取り組まなければいけない行動計画です。



17の目標と169のターゲットから構成された「持続可能な開発目標＝SDGs(エスディージーズ：Sustainable Development Goals)」では2030年までに持続可能な未来を達成することをめざし、取り組むべき課題や行動計画をまとめています。

JA あいち三河でもさまざまな「SDGs」を取り入れ、持続可能な開発目標に取り組んでいます。

未来を担う子どもたちのためにも…。私たちができることを考えてみませんか。

『過去があるから今がある』そんなこと、当たり前ですよ。

でも、『今があるけど未来がない?!』なんて状況に脅かされていること、ご存じですか？
今回はそんな未来を覆す【SDGs】をご紹介します。

日本を、 そして世界を 変えるために



現在、地球温暖化や大気汚染などの環境問題をはじめとした世界規模の課題がたくさんあります。日本国内でも、食料自給率問題や頻発する自然災害を耳にすることも少なくないのではないのでしょうか。貧しさが原因で十分な食事がとれない子どもや孤食化が進み、身体的・精神的な成長を妨げられていることも社会問題と言われています。

関わらず、子どもの貧困率は2015年の厚生労働省調査によると、先進国で構成されるOECD加盟国の平均を上回る13.9%。およそ7人に1人の計算となります。1985年は10.9%だったことを考えると、30年で子どもの貧困化は3%進んでいます。

そんな日本や世界を変えるための17項目の開発目標には、このようなものが取り決められています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

1 貧困をなくそう 	2 飢餓をゼロに 	3 すべての人に健康と福祉を 	4 質の高い教育をみんなに 	5 ジェンダー平等を実現しよう 	6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 	8 働きがいも経済成長も 	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	10 人や国の不平等をなくそう 	11 住み続けられるまちづくりを 	12 つくる責任 つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を 	14 海の豊かさを守ろう 	15 陸の豊かさを守ろう 	16 平和と公正をすべての人に 	17 パートナーシップで目標を達成しよう 	

こんな行動でも OK
少しの意識でSDGsを応援!!

毎日の生活でも、実はSDGsの応援ができることがたくさんあります。1人ひとりの小さな一歩が集まって、地球を救う大きな力になるかもしれません。日常生活の中でも簡単に取り組める取り組みの一部をご紹介します。

ゴミの分別 を心がける 	歯を磨いているときは 水を止める 	地産地消を 意識して 買い物する 	マイバッグ を持ち歩き レジ袋は使わない 	電気を こまめに消す
---------------------------	--------------------------------	-----------------------------------	---------------------------------------	--------------------------

SDGsって実はそんなに難しくないね。今すぐできることをコツコツとやってみよう!

など



牡羊座
3/21 - 4/19

【全体運】 コミュニケーションが活発化する中、行き違いも増えそう。約束は時間や待ち合わせ場所などきちんと決めて【幸運を呼ぶ食べ物】 梅

協同組合とSDGsの繋がりに関する～協同組合ができること～

JAをはじめとする協同組合は、組合員がお互いに協力して助け合う「1人はみんなのために、みんなは1人のために」という相互扶助の精神を基盤としています。様々な問題をみんなで協力し、解決していくことが協同組合の本質であり、組合員は自ら出資し、運営、参画など一人一人が平等であると考えられています。これらは協同組合の大きな特徴であるとされ、SDGsにも大きな影響を与えています。

2016年には国連で「協同組合は平等と民主的参加の原則を保っており、「誰一人取り残さない」というSDGsの原則を体現している」とも発表されたほど、協同組合の活動はSDGsにとって深い関わりがあります。

現在では、SDGsの認知度アップとともに協同組合への期待も高まっており、2019年12月に日本政府が出した「SDGs実施指針」の中にも「協同組合は各地域の課題解決に向けて、人間らしい社会を築きSDGsへ貢献することが期待される」と位置付けられています。

17項目の開発目標とJAの取り組む主な内容

SDGs	目標	JAの取り組む主な内容
1	あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困を終わらせる	● 組合員の所得向上 ● インフラ機能の提供 ● 子ども食堂の運営、協力
2	飢餓を終わらせ、食料安全保障と栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する	● 農業者の所得向上 ● 農業生産の拡大 ● 子ども食堂やフードバンクの取り組み
3	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する	● 健康づくり、介護予防活動 ● 交通安全啓発活動 ● 農業リスク診断活動
4	すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する	● 食農教育の実施 ● 新規就農支援サービスの実施
5	ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う	● 女性農業者の新規就農支援 ● 女性理事の登用促進
6	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する	● 水田による水資源の保全 ● 水資源生態系の保護
7	すべての人々の安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する	● 省エネルギー技術および資材の普及
8	包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する	● JAネットバンク、JAバンクアプリ ● ICT技術や新規就農者など農業従事者への各種支援
9	強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの促進を図る	● 農業へのICT等の先進技術の普及
10	各国内及び各国間の不平等を是正する	● 農福連携の推進 ● 国内外フェアトレードの推進
11	包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する	● 移動金融店舗車、移動購買店舗車 ● 地域の見守り、助け合い活動 ● 農業の多面的機能を通じたJAの存在意義の発揮
12	持続可能な生産消費形態を確保する	● 食の安全確保や情報公開 ● 食品ロスの削減 ● よい食プロジェクトの推進
13	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる	● 気候変動に対応した品種、品目への転換 ● 土壌診断等による農地の保全
14	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する	● MSC、ASC認証商品の活用 ● 肥料・農業の適正利用の指導
15	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する	● 耕作放棄地の発生抑制、利活用の推進 ● 連作障害防止にかかる営農指導
16	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する	● マネーロンダリング防止対策 ● コンプライアンス態勢の確立
17	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化させる	● 地方公共団体との連携協定 ● 地域の多様な組織との連携

（JCA資料参照）



JAあいち三河 自己改革×SDGs

JAあいち三河が進めてきた自己改革。昨年5月に政府の取り決めによる「農協改革集中推進期間」が終了となりましたが、JAあいち三河では引き続き自己改革に取り組んでいきます。今までJAあいち三河が行ってきた自己改革を振り返ると、実はSDGsにも関係した取り組みが多くありました。

移動金融店舗車・移動購買店舗車の導入

中山間地域を中心に、移動金融店舗車「ちょリス号」と移動購買店舗車「ほたる号」が走っています。入出金のできる金融窓口端末機や食料品、生活必需品などを載せ、地域住民へお届けしています。4月からは購入特典として「産直ツアー」も始まりました。SDGsの1番に含まれるあらゆる場所でのインフラ機能の提供に当てはまります。



イチゴ農家をめざす「いちご塾」を開講

イチゴ農家数の低下に歯止めをかけるため「いちご塾」に取り組んでいます。塾生は一人前のイチゴ農家になるため、1年以上かけて様々なことを学んでいます。昨年度は2名がめでたくイチゴ農家となりました。SDGsの4番の新規就農支援サービスや8番の働きがいのある仕事などが該当となります。



ドミーとコラボし地産地消を

㈱ドミーで昨年度特別販売ブースを設置し、管内の農産物を販売した「岡崎・幸田スペシャル」は多くの来店客で賑わいました。また、食育体験や「JAあいち三河米」の通年販売にも取り組み、地域農業を応援しています。SDGsの4番に掲げられる食農教育活動、12番にある安全な食の情報公開の取り組みに当てはまります。



貯金キャンペーンで農業を応援

JAあいち三河で取り組む定期貯金「サマーキャンペーン」、「ウィンターキャンペーン」でも地元農業を応援しています。貯金契約者には産直店舗で使える「農業応援チケット」などを進呈することで、地元農産物の購入拡大に取り組みました。SDGsの2番に掲げられる持続可能な農業の推進に該当します。



地元企業や子ども食堂へ安全・安心な食材を提供

JAあいち三河では地元企業へ新鮮な農産物の提供をしています。また、道の駅藤川宿の産直部会では、フードロス削減の取り組みとして子ども食堂へ無償で食材提供を行っています。まさしくSDGsの2番にある子ども食堂への食材提供、12番にある食品ロスの削減に関する取り組みです。



双子座

5/21-6/21

【全体運】 主役運が巡ってきています。身だしなみはおしゃれを意識して流行のアイテムをプラス。うれしい出来事あり
【幸運を呼ぶ食べ物】 大葉(シソ)

白ナス試験栽培し所得増加を目指す

県内でも有数なナス産地である JA あいち三河では、昨年度より「白ナス」の試験栽培に取り組んでいます。幸田憩の農園や道の駅藤川宿、イオン岡崎南店などで販売。付加価値をつけ1本当たりの単価を高くすることで、農家所得を目指しました。SDGsの2番、農業者の所得向上の取り組みです。



農業体験を通じて食と農の魅力を

女性部によるトマトの栽培やサツマイモの収穫、他組織と協力した田植えや稲刈り体験など農業体験を通じて食と農の魅力を伝え、農業の理解促進や地産地消に取り組んでいます。

SDGsの4番にある食農教育の実践にもJAあいち三河は積極的に取り組みます。



融資利用し農業拡大に取り組む

JAあいち三河は営農担当者と金融担当者が一緒に農家のもとを訪れる同行訪問を行っています。金融部門との連携体制を充実させ、農家の課題解決や農業拡大を目指しています。また、金融担当者は農業知識の更なる習得を目指し、支援施設の視察研修や農業融資の研修にも取り組んでいます。SDGsの9番、持続可能な産業の普及・促進などの取り組みです。



農業塾を開き地域農業活性化

JAあいち三河では「農業塾」を毎年開催しています。今年度は第一農業塾生、第二農業塾生あわせて19名が1年間かけて農業の基礎や農業技術を学びます。卒業後は産直店舗へ出荷している塾生も多くおり、地域農業の活性化に繋がっています。

今までの塾生には女性も多く、5番の女性農家支援の取り組みにもなっています。



支店運営委員会

地域にとって“なくてはならない”支店を目指し取り組む支店運営委員会。JAらしさあふれる農業に関する活動も多く、地域住民を対象とした農業体験や地元農産物をふだんに使った大鍋の振る舞いなどが行われています。SDGsの12番のターゲットに含まれる自然と調和したライフスタイルの意識拡大にも繋がっています。



Sustainable Development Goals

持続可能な 開発 目標



今回取り上げたものは一部ではありますが、このほかにも JAあいち三河が行ってきた自己改革とSDGsが関連した取り組みが多くあります。これからもJAあいち三河は多くの自己改革を進めるとともにSDGsにも積極的に取り組み、『SDGsの応援団』として地域農業、地域住民に必要なとされるJAを目指します。

